

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-4	高等学校	商業	ビジネス情報	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	商業 352	ビジネス情報 新訂版		

1. 編修の基本方針

- (1) 幅広い知識と教養を身に付けられるように、学習要素をもれなく扱った。
- (2) 職業及び生活との関連がわかるように、できる限り身近な例を扱った。
- (3) 主体的に社会の形成に参画する態度を養えるように、簡単なネットワークの構築・設定の技術を身に付けられる例を扱った。
- (4) 環境の保全に配慮し、例題などの題材には、出来る限り自然がイメージできるものを取り扱った。

2. 対照表

(例)

図書構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第1章 ビジネスと情報	・ 情報を取り扱ううえで必要な知識や操作を学習するだけでなく、コンプライアンスやCSRなどを取り上げ、社会的なモラルを意識して行動できるようにした(第1号)。	p. 19
	・ 学習する内容が、実社会でどのように役立てられているかを示し、学ぶ知識がビジネスでどのように活用されているのかが理解しやすくなるように配慮した(第2号)。	p. 6~7, p. 9~11
	・ インターネットで通信販売を利用するさいの情報の流れや注意点などを紹介した(第2号)。	p. 13~14, 19
	・ 教科書に登場する人物の男女バランス(人数)が偏らないように配慮した(第3号)。	p. 10, p. 12
	・ ISOの規格にある環境マネジメントシステム(ISO14000)について本文・側注でふれた(第4号)。	p. 21

<p>第2章 情報通信ネットワークの活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークにおけるLANの規格やLANケーブルの規格にはいろいろな種類があることを示した（第1号）。 ・さまざまな構成や接続方法をイラストで示すことで、主体的に学びやすくするようにした（第2号）。 ・教科書に登場する人物の男女バランス（人数）が偏らないように配慮した（第3号）。 ・演習問題で話し合う場面を取り入れることで、他者の考えを尊重し、協調できるようにした（第3号）。 	<p>p. 26～27, p. 37</p> <p>p. 25, p. 27, p. 28</p> <p>p. 25, p. 28, p. 43</p> <p>p. 58</p>
<p>第3章 表計算ソフトウェアの活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフトウェアに係る幅広い知識と教養を取り上げた（第1号）。 ・生徒の知的好奇心に応えられるように、補足的な内容を「豆知識」や「参考」として設けた。（第1号）。 ・自学自習ができるよう、表計算ソフトウェアの各例題は、操作のイメージがしやすい画面展開による説明とした（第2号）。 ・LED電球・蛍光灯をテーマとした演習問題を取り上げることで、身近な環境問題に興味を持てるようにした（第4号）。 	<p>p. 60～125</p> <p>p. 62, p. 79, p. 93, p. 116</p> <p>p. 60～125</p> <p>p. 127</p>
<p>第4章 データベースソフトウェアの活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトウェアの操作を学んだうえで、自分のアイデアを生かしたものを創作出来るようにした（第2号）。 ・教科書に登場する人物の男女バランス（人数）が偏らないように配慮した（第3号）。 ・他国も尊重するという観点から、いくつかの国の代表的な家具を例題の題材として取り上げた（第5号）。 	<p>p. 138～163</p> <p>p. 130～133, p. 136, p. 137</p> <p>p. 142</p>
<p>第5章 ソフトウェアを活用したシステム開発</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフトウェア，データベースソフトウェアを利用したシステム開発に係る幅広い知識と教養を取り上げた（第1号）。 	<p>p. 197～300</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・自学自習ができるよう，各例題は，操作のイメージがしやすい画面展開とコーディングの例を掲載する説明にした（第2号）。 ・文化・言語・年齢・性別などの違いを問わず誰もが利用しやすい施設・製品・デザインであるユニバーサルデザインの記述を取り上げた（第3号）。 ・スポーツ用品をテーマにした演習例題を取り上げることで，身近な自然や環境に興味を持てるようにした（第4号）。 	<p>p. 197～300</p> <p>p. 187</p> <p>p. 270～300</p>
見返し	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な情報のデジタル化が，実社会の形成に応用されていることを示した（第3号）。 	前見返し裏

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

専門的な知識，技術及び技能を習得できるように，用語から，その用語の掲載ページが検索できるように，できるだけ多くの専門用語を索引に掲載した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 担当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-4	高等学校	商業	ビジネス情報	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	商業 352	ビジネス情報 新訂版		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

「ビジネス情報」が、商業科のビジネス情報分野における応用的な科目であることを鑑み、生徒が興味を持って学習しながら、発展的な内容を無理なく習得できるように、以下の点について配慮した。

(1) 「第1章 ビジネスと情報」では、学習指導要領の「(1) ア 業務の情報化」について取り上げ、「(1) イ 情報通信ネットワークの導入と運用」と「(1) ウ データの保護」については、学習の流れを考慮し、第2章として扱うこととした。

(2) 「第2章 情報通信ネットワークの活用」では、マイクロソフトのWindows系OSを前提とした実習を取り上げた。また、実習内容は、各学校でのネットワークシステムの運用状況などを勘案して、平易な内容にとどめ、用語についても、難しいものは出来るだけ本文中で扱わないように心掛けた。

(3) 「第3章 表計算ソフトウェアの活用」では、利用する表計算ソフトウェアに、マイクロソフトのエクセルを取り上げた。学習指導要領の「(2) ア ビジネス計算とデータの集計・分析」は、学習の流れを考慮し、「データの集計」については1節で取り上げ、「ビジネス計算とデータの分析」については3節で取り上げることとした。

(4) 「第4章 データベースソフトウェアの活用」では、利用するデータベースソフトウェアに、マイクロソフトのアクセスを取り上げた。1節では、科目『情報処理』から学習してきた表計算ソフトウェアと、データベースソフトウェアとの違いについて、それぞれの長所や短所を比較することで、データベースについての理解をより深めてもらうことを意識した。

(5) 「第5章 ソフトウェアを活用したシステム開発」では、導入として、1節の「システム開発の基礎」のなかで、3節以降の実習に必要な一般的なシステム開発の手順のほかに、システムを開発する際に注意すべき基本的なことを掲載した。また、3節と4節では、例題に同じ題材を取り上げ、表計算ソフトウェアとデータベースソフトウェアでシステム開発を行う場合、どのような違いがあるか、という視点でも考えてもらうために、あえて同じ題材を使用した。

2. 対照表

(例)

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
1章 ビジネスと情報	(1) オフィス業務と情報通信 ネットワーク	p. 6	(5)
1節 情報化社会とビジネス		～	2
2節 ネットワークとビジネス	ア 業務の情報化	p. 22	3
2章 情報通信ネットワークの活用	(1) オフィス業務と情報通信 ネットワーク	p. 24	(16)
1節 ネットワークの基礎	イ 情報通信ネットワークの 導入と運用	～	12
2節 ネットワークの構築と管理			
3節 サーバ管理			
4節 セキュリティ管理	ウ データの保護	p. 58	4
3章 表計算ソフトウェアの活用	(2) 表計算ソフトウェアの 活用	p. 60	(32)
1節 集計処理	ア ビジネス計算とデータの 集計・分析	～	8
2節 オペレーションズリサーチの 基礎	イ オペレーションズ リサーチの基礎	p. 128	8
3節 ビジネス計算	ア ビジネス計算とデータの 集計・分析		8
4節 手続きの自動化	ウ 手続きの自動化		8

<p>4章 データベースソフトウェアの活用</p> <p>1節 ビジネス情報とデータベース</p> <p>2節 データベースの利用</p> <p>3節 S Q L の操作</p>	<p>(3) データベースソフトウェアの活用</p> <p>ア ビジネスとデータベース</p> <p>イ データベースの設計と作成</p> <p>ウ データの入力とデータベースの操作</p> <p>エ 報告書の作成</p> <p>オ 手続の自動化</p>	<p>p. 130</p> <p>～</p> <p>p. 178</p>	<p>(19)</p> <p>3</p> <p>10</p> <p>6</p>
<p>5章 ソフトウェアを活用したシステム開発</p> <p>1節 システム開発の基礎</p> <p>2節 アルゴリズムの基礎</p> <p>3節 表計算ソフトウェアによる開発</p> <p>4節 データベースソフトウェアによる開発</p>	<p>(4) ソフトウェアを活用したシステム開発</p> <p>イ 表計算ソフトウェアの活用</p> <p>ウ データベースソフトウェアの活用</p> <p>ア アルゴリズム</p> <p>イ 表計算ソフトウェアの活用</p> <p>ウ データベースソフトウェアの活用</p>	<p>p. 180</p> <p>～</p> <p>p. 300</p>	<p>(33)</p> <p>3</p> <p>6</p> <p>12</p> <p>12</p>
		<p>計</p>	<p>105</p>